

- 21世紀 心の時代に
自分を大切に、丁寧に生きていきたい
ROLAND 1
- 道徳授業 私の実践
・「チーム道徳」で教師も学び合い、道徳科を通して教育課題に立ち向かう
中山裕之..... 4
・生徒の思いから広げる授業づくり
川野光司..... 6
- SDGs×道徳..... 8
- どうなるこれからの道徳授業..... 10

道徳 ジャーナル

21世紀 心の時代に

自分を大切に、

丁寧に生きていきたい

誰よりも頑張るしかない

昔から、自分は何か秀でたところや才能がある人間ではないということ、うすうす感じていました。でも、それを言い訳にして、平凡な人生を受け入れるのは嫌でした。自分の運命にあらがって生きていくには、誰よりも頑張るしかないと思っていました。僕はよくも悪くもリアリストです。自分を過大評価せず「人より頑張らなければ成功できないだろう」という思いをモチベーションに変えてきました。

子どもの頃の僕はサッカーに夢中でした。二十四時間のうち、勉強や睡眠を除いた大半の時間をサッカーの練習に費やしました。日本の小学生というライフスタイルを送っている子どもたちの中では、いちばん練習をしていた自負があります。

高校は、サッカー強豪校の帝京高校に特待生として

て入学しました。ここでもサッカー漬けの毎日を送りましたが、目標には届きませんでした。そして、サッカー選手になるという子どもの頃からの夢がかなえることもできませんでした。自分の人生の中で最大の挫折です。

ホストでナンバーワンを目指す原動力となったのは、プロサッカー選手になり、高い年俵をもらって、華々しく活躍している同級生をテレビで見たとときに感じた劣等感と、平凡な自分でもなんとかして人生を大きく変えたいという反骨心でした。

情熱が人を成長させる

僕が起業したのは二十六歳のときです。現在はホストクラブだけでなく、飲食店や美容サロン、アパレルブランド経営など、主に美と食をメインにさまざまな事業を展開しています。



実業家
ローランド
ROLAND

多くのスタッフを抱える中、人材の発掘や育成は経営者にとって重要なスキルの一つです。選考の際は、一般的には才能や適性、ポテンシャル、経歴などから人を見るでしょう。これらはとても大切ですが、僕が最も比重を置いているのは、仕事に対する熱量です。つまり、この仕事が好きかという点を重視しています。

接客業の場合、才能で成績のよしあしが出るとい

う要素は否めませんが、才能がなくても仕事に対して地道に向き合い、努力し続けた人が最終的によいポジションに行く可能性が高いです。ですから、僕は長期的な視点で、この仕事が本当に好きで熱量を持って取り組んでくれそうな人材を見いだすことを意識しています。

子どもたちもそうだと思いますが、上手か否かではなく、何かを好きだと思いつづけられることも一つの才能です。学校では、数値化した評価が成績として出されます。そこには「この子は数学が好きである」という評価基準はないのかもしれませんが。だからこそ先生が、「(テストの点は関係なく)君は本当に数学が好きで楽しそうに勉強しているね」「歌の上手い下手は関係なく)君は本当に音楽が好きなんだね」ということを伝えるだけで、子どもは「もつと頑張ろう」と思いますし、自己肯定感も上がると思います。好きという気持ちで原動力に、地道に努力を続けることで、すばらしい結果につながることもあるかもしれません。

先生たちが、子どもたちの「好き」という気持ち自体を評価してあげることが大事ではないかと思えます。

夢や目標がなくてもいい

最近、子どもや若者に対して、夢や目標が美化されすぎてはいないでしょうか。「夢や目標は何?」

と問われて「特にありません」と言うと肩身の狭い思いをしてしまう。もちろん、夢や目標があればいいでしょうが、まだよく分からない、別にいいということでも構わないと思います。

僕はホストになったとき、ナンバーワンを目指そうと決意しましたが、その先の目標など考えていませんでした。それでも今、経営者としての自分がいるのは、ナンバーワンになる過程でさまざまな出会いがありチャンスを得たからです。目の前に全力で取り組む中で見えてくる世界があります。そこから視野が広がったり、やりたいことが見つかったりするものです。

ただし、大人として子どもたちに選択肢は与えてあげたいと思っています。学校に行くか、行かないか、二つ選択肢があって行かないことを選択する子もいるでしょう。でも、経済的な理由などで「行かない」という選択がしかないのはかわいそうなこと。本の印税をカンボジアの子どもたちに寄付したのは、そのような理由からです。

寄付と言っても、自分の幸せを考えた結果、少し余った分を分けているだけです。もし、僕が生活に困ったら、このようなことはできません。結局は自分がいちばん可愛いですから、それは恥ずべきことではないと思います。

自分の幸せを考え、自分を大切にすることを優先してもよいのではないのでしょうか。自分が満たされれば他者にも気持ちよく渡すことができます。道徳



の授業では、「人に優しくしよう」と言うのかもよしませんが、僕だったら、まずは誰よりも自分が幸せになるべきだと伝えたいですね。

偶発的に経験したデジタル・デトックス

海外旅行に行ったとき、たまたまホテルの部屋にスマホを置き忘れて外出してしまっただけがデジタル・デトックスのきっかけでした。普段であれば、観光名所では真っ先にスマホで写真を撮って満足していました。けれどスマホがないので、目に焼きつけるしかありません。そうして真剣に見た景色は、今まで写真に撮ったどの景色よりも鮮明に心に残っています。

デジタル・デトックスを始めて、よい意味で「一日ってこんなに長かったんだ！」と気付きました。電車の中、街中の多くの人が小さなスマホに視線を向けています。世界はこんなに広いのに、なぜあんな小さな端末に大切な時間を費やしてしまうのだろう。スマホを持たない時間をつくって初めて知った感覚です。長くても百年ほどの人生の、かけがえない時間の大半がスマホに費やされていると思うと、とてももったいない気持ちになりました。

スマホネイティブ世代である子どもたちは、生まれたときから身近にスマホがあります。長時間スマホを見ている子ども多いのではないのでしょうか。これが健全かという点、僕はそうは思いません。スマホ

以外のことに集中して取り組む時間の楽しさを伝えたり、スマホをいじっている時間は有意義なのかという問題提起をしたりすることは必要だと思います。

とはいえ、スマホはあまりに魅力的です。魅力的なものから目をそらすには、より魅力的なものを提示しなければなりません。だから、スマホがない素晴らしいさを、体験として味わってほしいと思います。僕の体験談がそのきっかけになればうれしいですし、先生からも子どもたちいろいろなヒントをあげてほしいです。

なんとなくSNSを開いて、ニュースの気になる記事をタップして、記事の中のおしゃれな洋服の広告をタップして、何のためにスマホを開いたのか忘れてしまう。そんな時間を過ごさず、丁寧に生きていと思っています。

ROLANDから子どもたちと先生へ

子どもたちには、勉強ができなくてもそんなに心配しなくていいと伝えたいです。学生時代の評価基準は成績が大きなウェイトを占めるけれど、人間をはかる上でのほんの一部分でしかありません。世の中に出たら、コミュニケーション能力が高いことも評価基準に入ってくるし、立ち回りがうまいか、一つのことを頑張れるかなど、仕事を得るためにさまざまな要素で戦います。

成績が悪いからといって悲観することはないし、

成績がよいからといって楽観するのもまた違います。ただ単に評価項目の一つでしかないということを知っておいてほしいです。

もし自分が今とは違う仕事を選ぶことができるならば、学校の先生になってみたいと正直に思います。

これまでの人生で、何千、何万という人と会ってきました。そのうちの多くは忘れてしまいました。が、学校の先生の顔と名前はずっと覚えていきます。人が長く生きていく中で、「忘れられない人」「重要な存在」になりうる立場にいるのが教師だと思います。人生の重要なピースを担う教師という仕事に魅力を感じます。

大人になってから言われた百の言葉よりも、学生時代に先生から言われた一言のほうが覚えているものが多いです。人間形成の過程でも重要な役目を担っていると思います。

昔から偉人の名言を本で読むのが好きでした。サッカーにまつわる名言は特に好きで、緊迫した試合中に、チームの雰囲気を一変させ勝利に導いた監督の魔法の一言などは、「めっちゃくちゃかっこいいな」「僕もこういことを言いたい」と思っていました。

先生は、子どもたちにたくさん言葉を伝えることができるすてきな職業です。僕が教師になったら、子どもたちの心に響く言葉をたくさん言いたいですね。

(取材・文／岡本侑子)

道徳授業 私の実践

「チーム道徳」で教師も学び合い、 道徳科を通して教育課題に立ち向かう



山梨県甲府市立
羽黒小学校教諭

中山 裕之

はじめに

「教師は授業で勝負！」とよく言われますが、小学校においては、学級担任が多くの教科を担当しなければなりません。近年、教師の働き方改革が叫ばれるようになってきましたが、学校現場は膨大な業務に追われ、授業準備の時間の確保も課題となっています。また、教師のなり手不足も深刻な問題です。学校で教師の欠員が出たり、教員採用試験の倍率が低下したりすることは、教育の質にも影響します。

さらに、道徳科の授業づくりに目を向けてみます。私が教職大学院内留時に小学校教師に向けて実施したアンケートでは、「道徳科の授業は他の教科に比べて指導が難しいと感じますか？」という問いに対し、「そう思う」「どちらかというところ思う」と答えた教師が八十三パーセントにも上り、若手教師ほど道徳科の授業に対する苦手意識が高い傾向にありました。

そこで、道徳科の授業づくりを通して、これらの教育課題に立ち向かうための教育実践について紹介します。

小学校での「ローテーション道徳」

ローテーション道徳は、教科担任制を基本とする中学校で多くの実践が行われてきました。私が勤務する小学校においても二年ほどローテーション道徳に取り組んできました。すると、以下の五つのメリットが生まれました。

- ①道徳科の授業の確実な実施
- ②教材研究を行う教材数の減少による、他の業務を行う時間の確保
- ③同一教材で授業を複数回行うことによる、授業力の向上

道徳授業デザインシート

私は、道徳科の授業づくりにおいて、自作の「道徳授業デザインシート」

- ④若手教師の育成
- ⑤複数の教師による多面的な児童理解
勤務校は、一学年二〜三クラス規模であり、四十代から五十代のベテランの学年主任と、経験年数が五年以下の二十代の教師で学年を組んでいます。道徳科の授業は、他の教科と比べ、児童の「素の姿」を見ることが出来る機会が多いと感じています。評価の方法などについての課題はありますが、学級担任以外の教師が道徳科の授業を行うことで、多面的な児童理解を行うことができます。さらには教師間で悩みを共有することにもつながり、道徳科の授業を核にした学年経営を行うこともできます。

多くの教育課題が山積する今だからこそ、一人の教師が一つのクラスを抱え込むのではなく、複数の教師が情報を共有し、「チーム道徳」を行うことは、児童にとっても教師にとってもメリットがあると感じています。

ト」を活用しています。また、道徳科の授業づくりの入門編として、多くの若手の先生にもこのシートを活用してもらっています。

道徳授業デザインシートを作成した目的は、先述のアンケート結果を踏まえ以下の二点にあります。

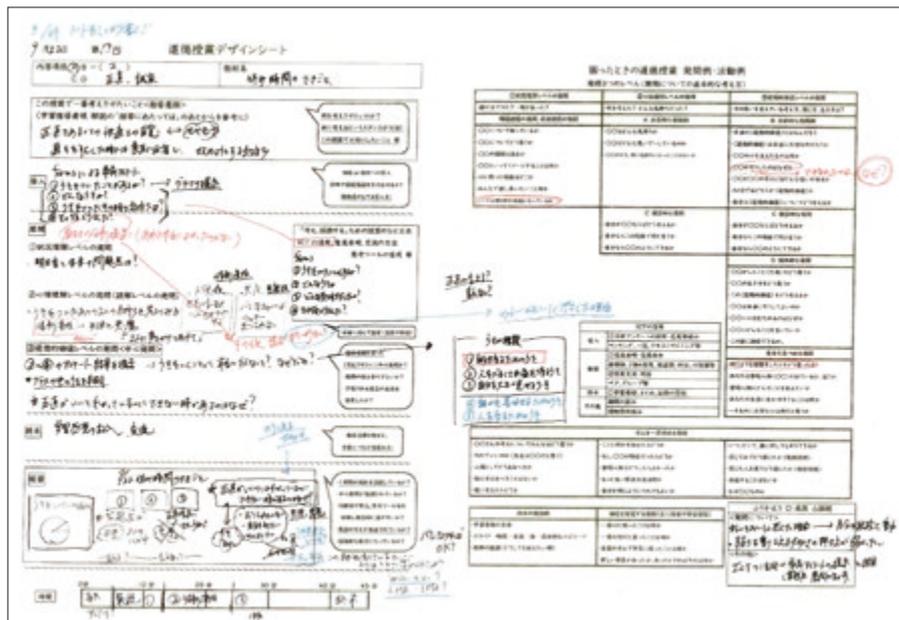
①道徳科の授業づくりに対するハードルを下げることで、

②短時間で中身の濃い教材研究を行うことで、他の業務に充てる時間を確保すること

主に左側に授業の流れ、右側に発問例や活動例を示してあります。

左側上段には、この授業で一番考えさせたいこと（指導意図）を書きます。学習指導要領解説の「指導に当たっては」の一文を参考に考えます。

左側中段には、導入―展開―終末といった授業の流れを書きます。右側に示されている発問例や活動例を参考にします。発問のレベルを「状況理解レベルの発問」「心情理解レベルの発問（読解レベルの発問）」「道徳的価値レベルの発問」の三つに分け、「道徳的価値レベルの発問」を中心発問として授業を組み立てます。



その他、板書や時間配分、意見表明や交流の方法、思考ツールの活用、「考え、議論する」ための授業の工夫を記入する欄や、授業の反省を次に生かすため、振り返りの欄も設けてあります。また、ICTの活用例や、考えを一層深める発問（問い返し）、終末

の活動例なども示してあります。

この「道徳授業デザインシート」を活用して三年程が経ちますが、若手教師と道徳科の授業づくりについて共に考えていく上で感じることは、発問のレベルを意識することが非常に重要だということです。

若手教師の多くは、道徳科において「何を、どのように問えばよいのか分からない」という悩みを持っています。発問のレベルを意識し、「道徳的価値レベルの発問」を中心発問として授業構想することで、「何を考え、何を問えばよいのか、道徳の授業づくりについての視野が開けた。」「児童の学びの様子に大きな変化が生まれた。」「授業力の向上が実感できた。」といった感想が寄せられています。

今後、シートをより使いやすいものに改善していきたいと考えています。

おわりに

平成から令和へ、そしてコロナ禍を経て学校現場はもとより、世の中が急激なスピードで変化しています。教師も従来のやり方にとらわれることなく、日々自分自身をアップデートしていかなければなりません。

やはり、「教師は授業で勝負！」です。道徳科の授業には、他の教科にはない、これからの時代を生き抜く「生き方」について考えることができる大きな可能性があると感じています。

私はこれまでの経験から、道徳科の授業を充実させ、本音で語り合う経験を積み重ねることが、児童の心の成長につながると実感しています。ベテラン教師と若手教師が道徳科の授業について語り合い、「チーム道徳」を推進することで、多くの教育課題に立ち向かうことができ、児童にとっても教師にとってもHAPPY-HAPPYな教育活動が展開できるのではないかと考えています。

（なかやま ひろゆき）

道徳授業私の実践

生徒の思いから 広げる授業づくり



茨城県稲敷市立
江戸崎中学校教諭
川野光司

はじめに

私が道徳科の授業を行う際は、生徒の感想を大切にしています。授業の最後には必ず感想を書く時間を設定していますが、初めの授業ほど、「○○が大切だということが分かった。」という記述をする生徒がいます。そこで、毎回「感想は自分の『感じたこと』や自分の『思い』を書きましょう。」と呼びかけています。繰り返し書いていくことで、素直な自分の思いを書く生徒が増えてきます。数回の授業で変

化するようなことはありませんが、一年間継続していくことで、生徒一人一人の考え方の変化を見取れるのが道徳科の授業の醍醐味であると感じています。

生徒の思いを引き出す工夫

「一時間の道徳科の授業で、どれだけの自分の思いに向き合うことができるだろうか。」私が常日頃考えていることです。言葉や文章に表れることが全てではありませんが、思いを形にして、相互に共有することで考えを深め

ることは道徳科の授業で大切だと考えます。自分の思いを形にするために、ノートに書いたり、グループで話し合ったり、ペアワークで交流したりしますが、それだけでは、限られた人の思いや考え方にしか触れることができません。さらに多くの考えに触れるには、学級全体での共有の時間が大切になってきます。しかし、自分の意見を表すことが苦手な生徒にとって、全体の中で発言することは難しいと考えられます。まずは、そのような生徒に対して、自分の思いを他の人に伝えることへのハードルを下げる工夫をし、教

師や他の生徒がその思いを受け止めることで、安心して発言できる場を整えていく必要があります。

授業実践

○**主題名** 規則の意義

○**内容項目** 遵法精神、公德心

○**教材名** 「二通の手紙」(『新・中学生の道徳 明日への扉 3』学研)

○**ねらい**

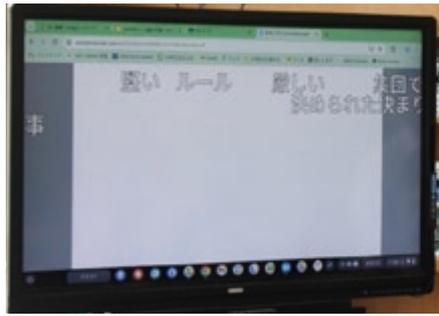
元さんの行動や思いから、規則の意義について考える。規則を守ることの大切さについて理解すると共に、主体的にきまりを守ろうとする意欲を高める。

【**思いを可視化するICTの活用**】

導入で「規則という言葉に対してもどのようなイメージがありますか。」という発問をしました。短い時間で多くの考えを共有したいという思いから、SNSのライブ配信のような感覚で、匿名で考えを共有するソフトを用いました。生徒もなじみやすいようで、反応も非常によく、活発に意見交流することができました。

導入以外でも、教材の範読中に思っ

たことをリアルタイムでアウトプットしたり、他の人の意見に対してリアクションボタンで反応したり、多くの生徒が一斉に思いを形にすることができ



▲「CommentScreen」というツール。「ICTでこんなことできないかな」と思ったら調べてみることも大切です。

【思いをつなげる問い返し】
教材を範読した後に、ペアで感想を共有します。その後、全体で共有する際に、数人に発表してもらいますが、発表者のペアだった生徒に対しても、「相手の感想を聞いて、あなたはどうか思いましたか。」と問うなど、ただ聞き取るだけではなく、他の生徒につなげる問い返しをします。聞き取った感想は板書しますが、その後の授業展開によって臨機応変に対応できるように、イメージマップを使って板書しま

す。議論に発展しそうな感想に対しては、全体でも「皆さんはどう思いますか。」と促し、生徒の思いから授業を広げていきます。

T: 感想を教えてください。

S1: 元さんがかわいそうです。

S2: ルールって一体何のためにあるんだらうって思いました。

S3: 子どもなので入れないほうがよかったです。

T: 皆さんは子どもを入園させてしまった元さんへの処分についてどう思いますか。

S4: 人として優しいことをしたのに厳しいと思います。

S5: どちらとも言えません。人としてはよいことをしたけど、社会的にはよくないと思います。

S6: 適切だと思います。規則を守ることは大切です。

T: なぜ規則を守ることが大切なのでしょう。規則をつくった人はどのような思いでつくったのでしょうか。

罰則に関する議論のみでは価値に迫ることが難しいと感じたので、規則そのものに込められた思いについて考え

る場を設けました。生徒たちは規則にもさまざまな思いが込められていることに気付く、価値理解につながっていききました。

【思いをつづる付箋】

最後の感想を書く場面では、あえて手書きにしています。手書きのよさは自分のペースで書きながら内省できることです。ICTの「簡単に文章を訂正できる」という利点が、自分の思いと向き合う際には欠点にもなり得ると考えています。

・元さんの行動はすばらしいと思ったけれど、本部の対応やルールの在り方などを考え直して、守らなくてはいけなく感じた。

・一見不自由に思えても、誰かを守るのに規則が役立つときもあるのだと思つた。

・ルールとは堅苦しいものではなく「もしも」を考えてつくられた優しいさなのかなと思つた。

付箋に書かれた生徒の感想は、一枚の用紙にまとめて貼り、教室に掲示します。生徒が周囲の目を気にせず本音を書けるように、付箋には名前を書きません。休み時間などに何気なく、付

箋の感想を読んでいる生徒もいます。

ノートなどに感想を積み重ねていくのもよいですが、多くの人に見てもらえていこうというところが価値づけとなり、次の授業につながっていくと思つています。



おわりに

私は道徳科の授業を通して、生徒に「考える力」をつけてほしいと思つています。多様な考え方に触れることで、「こういう考え方もあるかもしれない。」「とたたくさんの想定ができるようになることは、日常生活を送る上で大切なことだと思います。生徒が書いた感想を読んでいると、毎回のように「〇〇さんはこういうことを考えたのか。」というように、授業中には気付くことができなかつた発見があります。今後も生徒の思いをより多く引き出せるように日々の実践を積み重ねていきたいと思つています。

(かわの こうじ)

SDGsのこれまでと これから（後編）

SDGsのその先を

見据えた教育

一般社団法人
グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 理事
きむら だいすけ
木村 大輔

二〇五〇年の教育

「私たちは何を継続すべきなのでしょう」

「私たちは何をやるべきでしょうか」

「何を創造的に再想像する必要があるのでしょうか」

これは二〇二一年にユネスコが発行した、二〇五〇年の教育のあり方を示した報告書『私たちの未来を共に再想像する…教育のための新たな社会契約』（以下「報告書」）で投げかけられた問いです。

報告書が見据える二〇五〇年は、現在の小中学生が責任世代になっている時代です。ポジティブな変化だけではなく、不平等への対策、気候危機への対応、民主主義の後退、デジタル格差、ジェンダー不平等といったリスクが増大することも予想されています。その未来に向け、今後の教育の方向性を決めていく上で非常に重要な報告書です。多様性や多元主義を大切に、協調や団結のための教授法や、分断、不正義を生み出さないために共感や感情を扱うことの重要性などが提示されています。

報告書の発行に関わった青柳正規東京大学名誉教授は、「教育の未来に関する考察」（文部科学省、二〇二〇年）で以下のような視点を共有しています。

①世界はどこに向かうのか

AIをはじめとする急速な技術革新やグローバル化によるメリットだけでなく、孤立や対立といった社会的分断がもたらされかねない。物事が細分化さ

れることで、全体最適が見失われる恐れがある。

②私たちはどんな存在となることを目指すべきか

一人一人が主体的に、絶対解のない問いに関して対話を重ねて深く思考し、試行錯誤を重ね改善していく必要がある。

③今後の学校や教員はどうあるべきか

学習者の視点で学校や教員の役割を再構築する必要がある。新しい時代の要請を踏まえた基礎教育やリテラシーの再定義が必要である。読み書きそろばんにとどまらず、社会・情動スキルが重視される。

進む教育の変革と道徳の重要性

報告書が発行された後の二〇二二年に、教育を変革するために政治を巻き込んだ形で「教育の変革サミット」が開催されました。グテーレス国連事務総長はじめ各国の首脳が集まった場で、教育の変革にコミットする旨の宣言が出され、各国で更なる推進をすることとなりました。

さらに、二〇二三年十一月には、『平和、人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シチズンシップ、持続可能な開発のための教育に関する勧告』（以下「勧告」）がユネスコ総会で全会一致で採択されました。国際理解教育やSDGs、環境教育が推進される原点の一つである、一九七四年ユネスコ勧告の内容を更新した非常に重要な位置づけのもので、各国で、この勧告の内容をどのように教育

に盛り込むか、議論が始まるどころです。

勧告が示す内容の一部を見てみましょう。まず、「平和は国際交渉を通じてだけでなく、教室や校庭、コミュニティや人生を通じて築かれるもの」という理念のもと、「恒久的な平和と持続可能な開発をもたらすために教育がいかに活用されるかが、世界的基準となる唯一の手段である」とされています。

この『平和』という理想を実現していくために、ESDやグローバル・シチズンシップ教育などの「変容的教育（学習者の変容をもたらす教育）」の定義を示しながら、変革的で質の高い教育を実現するための十四の主導原則が示されました。（図1）

この十四の主導原則を道徳で学ぶ内容と照らし合わせると、多くの共通点が見つかります。また、道徳では扱いきれていないものや、他教科で扱われているテーマもあります。

この主導原則に加え、教育は変容をもたらすものでなければいけないとし、知識、スキル、価値観、態度、ふるまい・行動に関する十二の学習目標も提示されています（図2）。

「主体的、対話的で深い学び」がなぜ必要なのか、それを通して何を育成・涵養できるのか。この学習目標や十四の主導原則を照らし合わせてみると、その意味を実感できるのではないのでしょうか。

「教育の未来」と照らし合わせると、道徳は欠かせない教科だと理解いただけるでしょう。物語を読

み、当事者の立場になって考えてみる。単純には答えられない問いに向き合う。こうした社会・情動的な学習を継続することで、不確実性や疑念、未解決のものなど答えのない状態を受容する能力＝ネガティブケイパビリティを涵養できます。何が妥当なのか、何が公平・公正なのかについて、白か黒だけでなく、個々の価値観を形成する手段となります。

他方で、SDGsや前述した教育勧告が求めている「行動」の変容は、道徳では求めていません。だからこそ、総合的な学習（探究）の時間、関連する教科の単元などを通して問い、協働・創造（共創）し行動・貢献することが大切です。

本連載も最後になりますが、「教育の未来」と、そのための変革の方向性を少しでも感じていただけたらうれしいです。私は、勧告にある十四の主導原則や十二の学習目標は、授業ではなく日常生活の中で当たり前になることで、その目標が達成されると思っています。皆さん一人一人が、児童生徒、同僚、家族、社会との関わりの中で、下図に示された主導原則、学習目標をどのくらい意識できていたか、照らし合わせてみてください。

しかし、読めば読むほど壮大に感じてしまい、果たして自分に教えられるのか……と感じる人も少なくないでしょう。だからこそ最初の問いに戻りたいと思います。何もかもを教える必要はありません。分からないことは皆で一緒に考えていくのです。

図1 14の主導原則



図2 12の学習目標



「私たちは何を継続すべきなのでしょう」「私たちは何をやるべきなのでしょう」「私たちが何をやる必要があるのでしょうか」「何を創造的に再想像する必要があるのでしょうか」

（図1,2, UNESCO Recommendation on Education for Peace, Human Rights and Sustainable Development: an explainerよりGiFT仮訳）

どうなるこれからの道徳授業

連載24回 授業構想編

監修・廣瀬仁郎 法政大学兼任講師
マンガ・のはらあこ

とくちゃん

夏先生



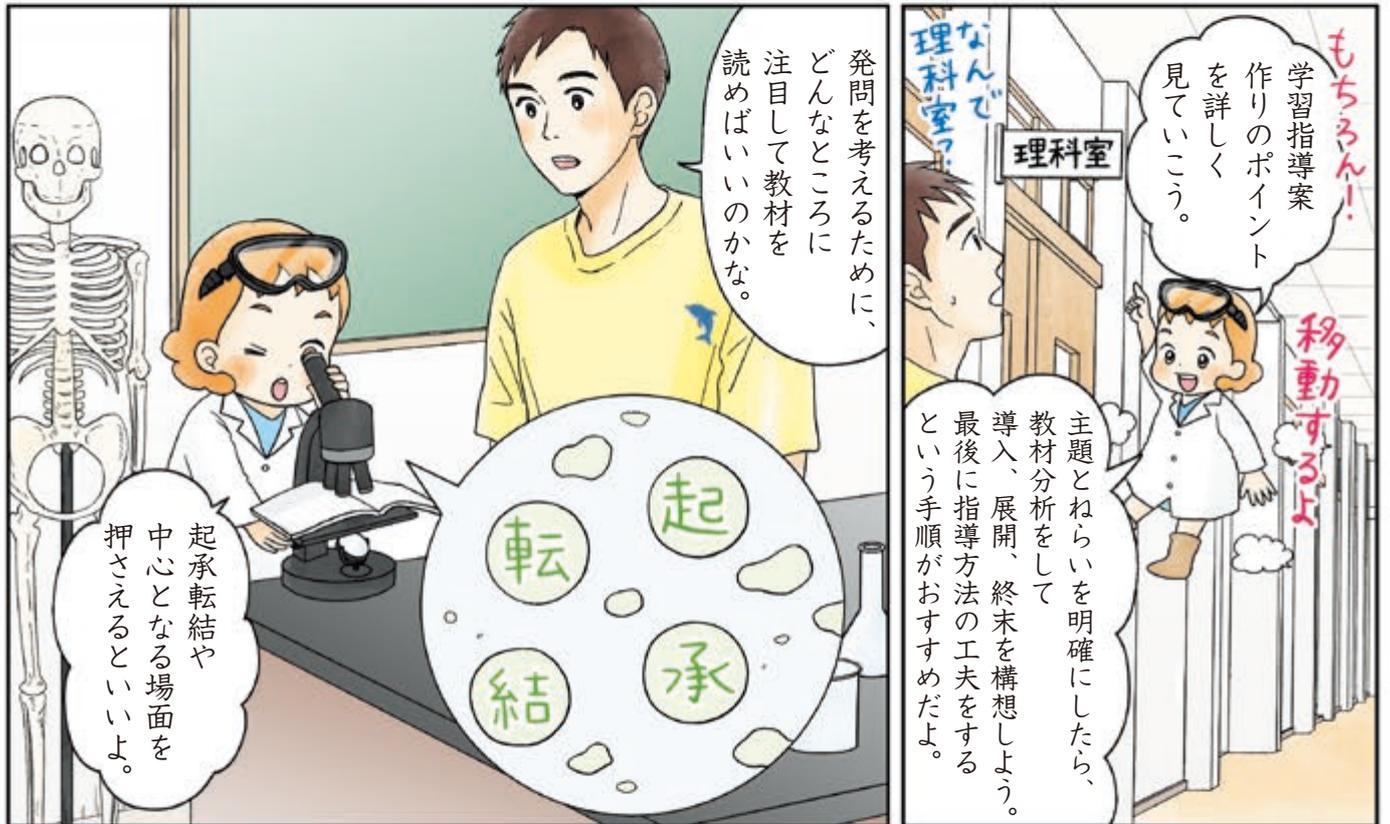


分かっていても、実際に考えるのは難しいんだよね……。

はじめは教師用指導書の指導案を参考にして、道徳授業のノウハウを身につけよう。

慣れてきたら、いろいろな指導法を試して、自分なりの道徳授業を作ってみよう。

指導書に沿って授業するとしても、学習指導案はしっかり作れるようになってほしいな。



もちろんです！

移動するよ

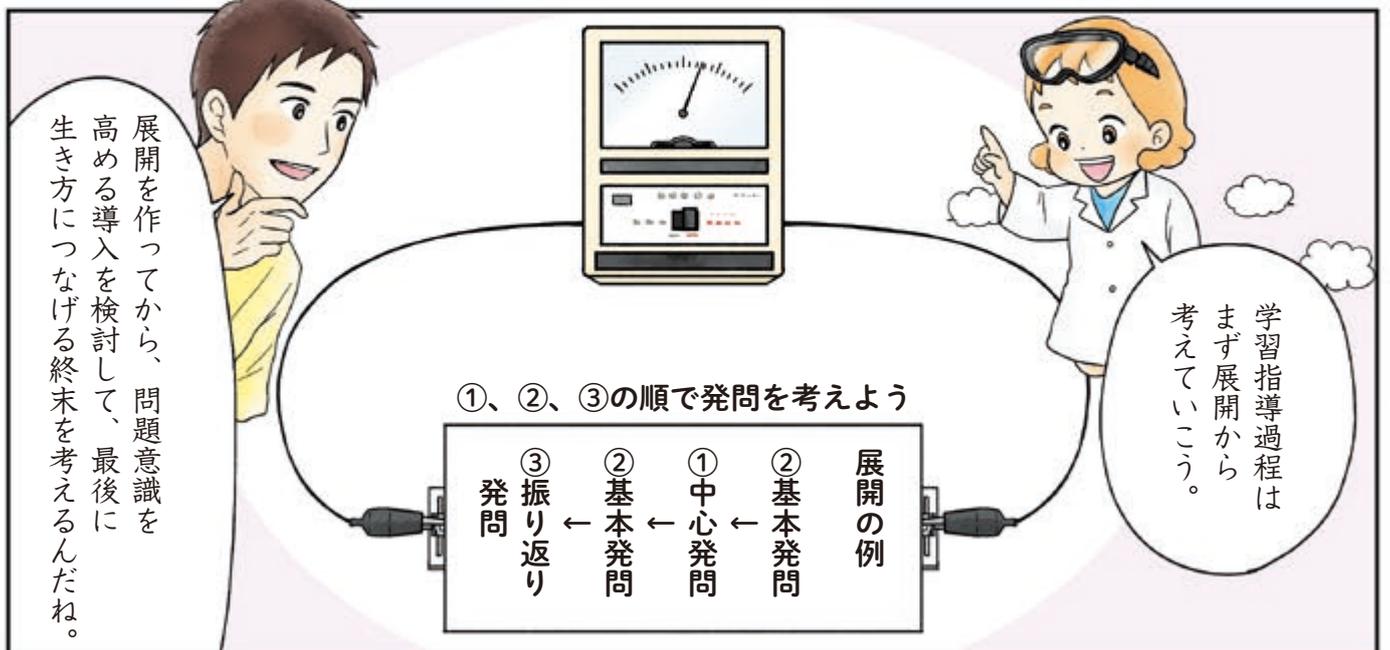
学習指導案作りのポイントを詳しく見ていこう。

主題とねらいを明確にしたら、教材分析をして導入、展開、終末を構想しよう。最後に指導方法の工夫をするという手順がおすすめだよ。

発問を考えるために、どんなところに注目して教材を読めばいいのかな。



起承転結や中心となる場面を押さえるといいよ。



学習指導過程はまず展開から考えていこう。

①、②、③の順で発問を考えよう



展開を作ってから、問題意識を高める導入を検討して、最後に生き方につながる終末を考えるんだね。

学習活動の工夫……話し合い、書く活動
表現活動（役割演技など）
ICT活用 など

指導体制……チーム・ティーチング
ゲストティーチャー
校長、教頭の参加 など

評価……多面的・多角的な
見方へと発展していたか
道徳的価値の理解を自分自身
との関わりの中で深めていたか

板書……板書をイメージし、
学習指導案全体を調整



学習指導過程を構想したら、
学習活動の工夫や評価、
板書のイメージをして、
指導案全体を調整しよう。



授業構想は、教師が
授業を引っ張る
ためではなく、
伴走者として
授業するための
ものなんだね。

でも、いちばん
大切なのは
子どもたちの主体的な
学びを尊重して
共に授業を
作っていく
ことじゃないかな。

教師が明確な意図を持って
学習指導案を作ることは
もちろん大切。

ところで
とくちゃんの
研究は
何だったの？



おいしい！

次回は、
発問の工夫に
ついてご紹介！

料理も
食べるのも
好きだった
もんね……。

とくちゃん、
合う魔法の
調味料を
開発しました！

どんな料理にも

大丈夫？

すごい色……

道徳ジャーナル
110号ではコックに
なったとくちゃんが
学習指導過程について
紹介しているよ！

道徳ジャーナル122号 令和6年8月発行

発行所 株式会社Gakken 発行人 木村昌弘/編集人 麻生征宏

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/> ●「道徳ジャーナル」のPDF版はWEBページから。

9300009612

LINE 公式アカウントのお知らせ

(株) Gakken おんたま先生

体育・保健体育や道徳、特別支援教育、ICT 教育などの最新情報や、
オンラインセミナーの開催情報を配信しています。

友達
募集中！



QRコードをスキャン
するとLINEの友達に
追加されます。